

2025 年度 教育課程

専門分野 (成人)

# 成人看護学

## 構築の考え方

成人看護学は、成人期のあらゆる健康レベルにある対象に対して、看護実践をおこなうための基礎的能力を養う領域として位置づける。

成人期は、青年期から壮年期・向老期にあたり、人生の中で最も長い期間である。

この時期の対象は、身体的には成長・成熟・衰退という変化が起こる中で、アイデンティティを確立し、職業の選択を行う・結婚して家庭を築く等、自立かつ自律した社会生活を営み、社会的役割や責任を負いながら生活を送るとされる。そのため、心身にかかる負担が多く、置かれている環境や生活習慣から健康問題も生じやすい時期である。

現代の経済的・環境的变化はめまぐるしく、それらの影響を受けて対象の健康問題も複雑性や多様性を増している。このため、対象を包括的に理解し、その健康生活を多角的にとらえる視点を持つ必要がある。そして、対象の生活と健康に関する基本的知識を理解基盤とし、多様な健康状態や健康問題を理解し、それらに対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ必要がある。

看護においては、対象を保健医療という広い視野の中で健康の保持・増進という視点においてとらえ、疾患をもった対象に対して、彼らが最も必要としている援助を行うといった基本に立ち考えていくことが重要である。

これらのことから、個々人の生活と健康に焦点を合わせ、その人らしくあることができるよう看護の基本となる考え方や方法を学び、大人に特徴的に、また共通してみられる健康状態や健康問題に対する具体的な援助方法を学習していく。

また、成人期にある学生が、家族や社会の一員としての自己を理解し、発達課題を明確にした上で課題達成ができるよう学習を支援する。

以上のことから、成人看護学の授業科目構造は、成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ 6単位（135時間）並びに成人看護学実習2単位（90単位）とし、合計単位数は8単位（225時間）とする。

成人看護学概論では、成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴、成人の健康の保持・増進に対する援助について理解する。

成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴでは、健康障害を持つ成人とその家族を理解するとともに、健康障害からの回復の支援や、健康障害をもちつつ生活を営む対象への看護について理解する。

健康障害を持つ成人を理解し、健康障害の成り立ちや回復するための治療を踏まえつつ看護を学習するために、解剖生理学・疾病治療論と同じ科目構成とする。

成人看護学実習では、生命の危機的状況にある対象を理解し、生命の維持と健康の回復に向けた看護を理解する。

# 成人看護学

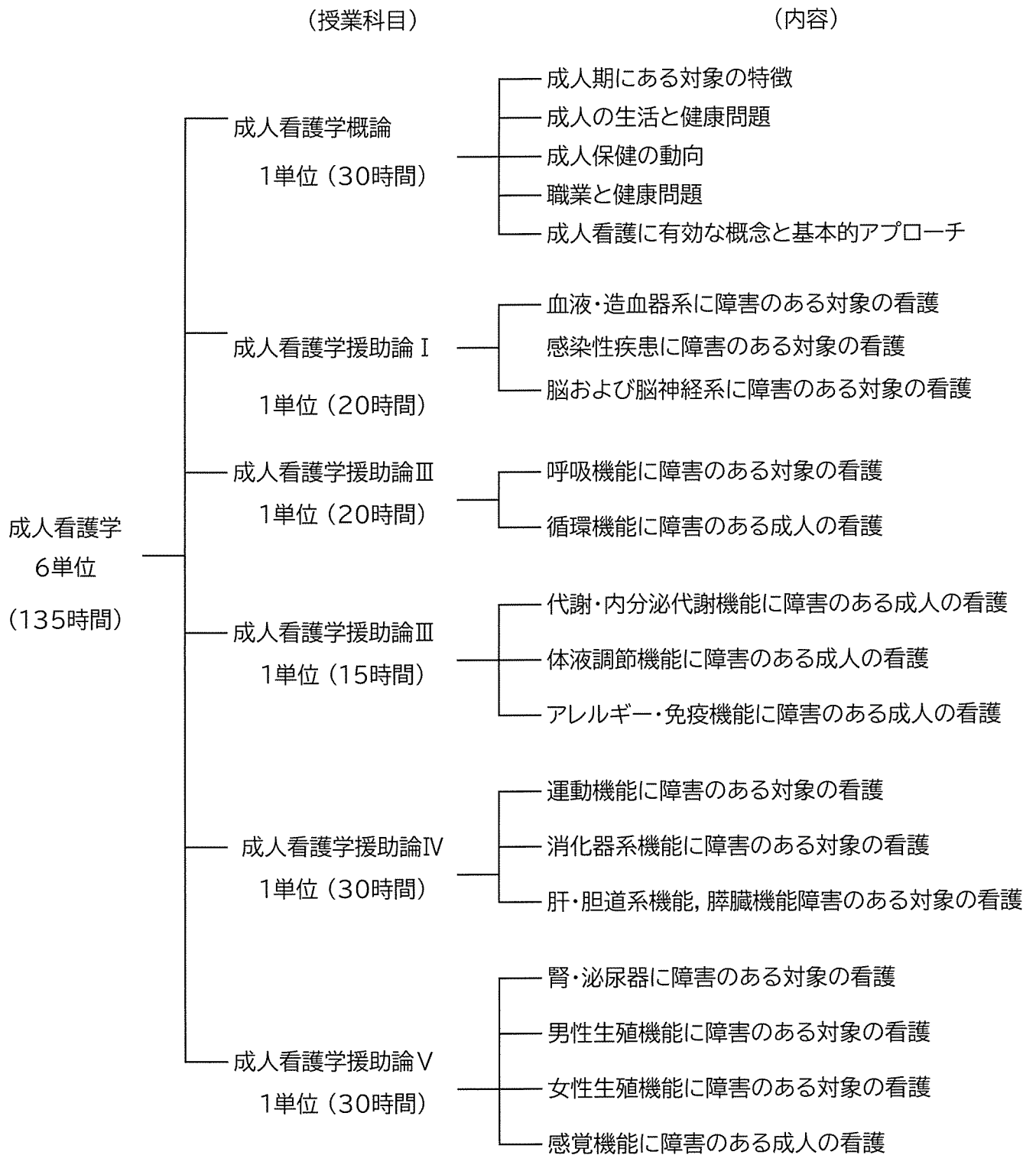
## 目 的

成人期にある対象の特徴を理解し，健康の保持・増進および健康障害に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

## 目 標

- 1 成人期にある対象の特徴と健康特性を理解する。
- 2 成人期にある対象の健康の保持・増進と疾病予防に必要な看護について理解する。
- 3 成人期にある対象の健康障害のレベルや疾病の経過に対応した看護について理解する。
- 4 成人期にある対象を支援する保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。

# 成人看護学 科目構造



科目名	成人看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	1年
担当者名	海老沢 佳代 (実務経験のある教育者)						
ねらい	成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解するとともに、成人期における健康障害のリスクと健康の保持増進に対する支援を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～5回 (45分)	1 成人期の発達と役割 1) 成人各期の身体の変化 (発達・成熟と衰退) 2) 心理・社会的および生活状況からみた特徴 3) 性的自己の発達 4) 成人の役割						講義 GW
6～8回	2 成人の学習の特徴と看護 1) 成人の学びの特徴 2) 成人教育理論 (1) アンドラゴジー (2) エンパワメント (3) 自己効力感						講義
8～15回  (45分)	3 成人保健 1) 生活習慣と健康障害 (1)生活習慣病と健康障害の関連 (2)生活習慣病の予防と対応 (3)生活習慣病の予防とセルフケア 2) ストレスと健康障害 (1)ストレスの種類と生理的対応 ①ストレス理論 ②コーピング理論 (2)生活ストレスと健康障害 (3)ストレス関連疾患の予防と対応 3) 職業 (仕事) と健康障害 (1) 就労条件と健校医障害の関連 ①労働環境 ③雇用形態 (2)職業性疾病の予防と対応 4 成人保健対策 1) 地域保健対策 国民の健康づくりと健康増進法 2) 生活習慣病対策 3) 産業保健対策						講義 GW
							試験
評価方法 及び観点	筆記試験 レポート GWへの参加姿勢 } 総合的に評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 (医学書院) 看護のための人間発達学 第5版 (医学書院) 公衆衛生が見える 第3版 (メディックメディア) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・グループワークには積極的な参加姿勢を望む。 ・課題レポート等は提出期限を厳守のうえ、表紙をつけて提出すること。						

科目名	成人看護学援助論Ⅰ（血液造血器疾患・脳神経系疾患患者の看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （20時間）	対象 年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて、診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<血液造血器> 1～5回 (45)	1 血液・造血器疾患患者の看護 1) 白血病（急性・慢性） 2) 悪性リンパ腫 3) 多発性骨髄腫						講義
<脳神経系> 1～3回	1 脳・神経疾患（外科系）患者の看護 1) くも膜下出血 2) 脳腫瘍 3) 頭部外傷						
4～5回	2 脳・神経疾患（内科系）患者の看護 1) 脳梗塞 2) 脳出血 3) てんかん 4) ギランバレー症候群 5) パーキンソン病						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門 成人看護学④ 血液・造血器（医学書院） 系統看護学講座 専門 成人看護学⑦ 脳・神経（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学（医学書院） 生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連科目：解剖生理学Ⅰ・疾病治療論Ⅰが基礎となり、看護の学習となる科目であるので、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。</li> <li>・解剖生理学テキスト「生体のしくみ」：「血液のしくみ」「神経系のしくみ1・2・3」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。（※復習視聴）（なお何度視聴してもかまわない。）</li> <li>・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。</li> </ul>						

科目名	成人看護学援助論Ⅱ (呼吸機能並びに循環機能・感染による障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師(実務経験のある授業科目:看護師) 外部講師(〃) 外部講師(〃)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて、診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<呼吸器> 1~6回	1 呼吸器疾患患者の看護 1) 肺炎(細菌性肺炎・間質性肺炎・誤嚥性肺炎) 2) 気管支喘息 3) 肺がん 4) 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 5) 気胸						講義
<感染症> 1~3回 (45分)	2 感染症疾患患者の看護 1) ウイルスによる感染症(インフルエンザ・エボラ出血熱・ コロナウイルス感染症・ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症) 2) 細菌による感染症(結核・コレラ・梅毒) 3) 敗血症 破傷風						
<循環器> 1~3回	2 循環器系疾患(内科系)患者の看護 1) 虚血性心疾患 ①狭心症 ②急性心筋梗塞 2) 急性冠症候群 3) 心不全 4) 不整脈 5) 血圧異常:高血圧						
4~6回	3 循環器系疾患(外科系)患者の看護 1) 心臓弁膜症 2) 大動脈解離 3) 閉塞症動脈硬化症						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門 成人看護学② 呼吸器(医学書院) 系統看護学講座 専門 成人看護学③ 循環器(医学書院) 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学①① アルギン-膠原病・感染症(医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト(医学映像教育センター)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・関連科目:解剖生理学Ⅱ・疾病治療論Ⅱが基礎となり、看護の学習となる科目であるので、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。・解剖生理学テキスト「生体のしくみ」:「呼吸のしくみ」「循環のしくみ1・2」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。(※復習視聴)(なお、何度視聴してもかまわない。)・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	成人看護学援助論Ⅲ (代謝・内分泌系, 免疫・アレルギー-機能に障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師(実務経験のある授業科目:看護師) 外部講師(実務経験のある授業科目:看護師)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて、診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～5回 (45)	1 代謝・内分泌代謝疾患患者の看護の実際 1) 視床下垂体機能:尿崩症 2) 甲状腺疾患:甲状腺機能亢進症(バセドウ病) 甲状腺がん 3) 副甲状腺疾患 4) 副腎疾患:クッシング症候群・アルドステロン症 5) 糖尿病 6) 高脂血症 7) 痛風						講義
<免疫系> 6～8回 (45)	2 アレルギー・膠原病疾患患者の看護 1) 関節リウマチ 2) シェーグレン症候群 3) 全身性エリテマトーデス(SLE)						
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑩ アレルギー-膠原病・感染症(医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト(医学映像教育センター)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・関連科目:解剖生理学Ⅲ・疾病治療論Ⅲが基礎となり、看護の学習となる科目であるので、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・映像以外:「ホルモンのしくみ」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。(※復習視聴)(なお、映像以外は、何度視聴してもかまわない。) ・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						



科目名	成人看護学援助論Ⅳ (運動器系・消化器系機能に障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師) 外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師) 外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師) 外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて、診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<運動器> 1～5回	1 運動器疾患患者の看護 1) 大腿骨骨折 (頸部・骨幹部) 2) 脊髄損傷 3) 椎間板ヘルニア 4) 変形性脊椎症 5) 関節の変性疾患 (変形性股関節症・変形性膝関節症)						講義
<消化器> 1～3回	2 消化器系疾患 (主に外科系) 患者の看護 1) 食道がん 2) 胃がん 3) 大腸がん						
4・5回	3 消化器系疾患 (主に内科系) 患者の看護 1) 胃・十二指腸潰瘍 2) 潰瘍性大腸炎・クローン病 3) イレウス						
6～10回 (45)	4 肝・胆道系, 膵機能疾患患者の看護 1) 肝臓がん 2) 肝炎 (急性・慢性) 3) 肝硬変 4) 胆石症 5) 膵臓がん 6) 膵炎 (急性・慢性)						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑮ 歯科・口腔 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・関連科目: 解剖生理学Ⅳ・疾病治療論Ⅳが基礎となり、看護の学習となる科目であるので、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。・映像以外: 「身体運動のしくみ2」「消化吸収のしくみ1」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。(※復習視聴) (なお、映像以外は何度視聴してもかまわない。)・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	成人看護学援助論Ⅴ (体液調節機能, 生殖機能, 感覚機能に障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師) 外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて, 診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
< 腎 泌 尿 器 > >1~4 回 (45)	1 腎臓疾患患者の看護 1) 急性・慢性腎不全 (透析看護含) 2) ネフローゼ症候群 3) 炎症性疾患 (腎炎, 膀胱炎)						講義
5~7 回	2 泌尿器疾患患者の看護 1) 尿路結石 2) 前立腺がん 3) 膀胱腫瘍 4) 精巣腫瘍						
< 婦 人 科 > 1~3 回	3 性・生殖器疾患患者の看護 1) 卵巣がん 2) 子宮がん 3) 子宮筋腫 4) 性感染症						
4・5 回	5) 乳がん						
< 感覚器 > 1 回	4 感覚器疾患患者の看護 1) 眼科疾患患者の看護 緑内障 網膜剥離						
2 回	2) 耳鼻咽喉科疾患患者の看護: 突発性難聴 メニエール病						
3 回	3) 皮膚科疾患患者の看護 熱傷						
(45 分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト (医学映像教育センター) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑬ 眼 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑯ 皮膚 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・関連科目: 解剖生理学Ⅴ・疾病治療論Ⅴが基礎となり, 看護の学習となる科目であるので, 必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・映像以外: 「排泄のしくみ」を事前に視聴のうえ, 授業に臨むこと。(※復習視聴) (なお, 映像以外は, 何度視聴してもかまわない。) ・複数の講師が担当するので, 出席時間等は自己管理のうえ, 体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

## 成人看護学 学習内容マトリクス

科目名	単元	主な疾患	主要症状	検査・治療・処置	時間
成人看護学援助論Ⅰ 1単位 20時間 (うち試験1時間)	・血液・造血機能に障害のある対象の看護	白血病(急性・慢性) 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫	出血傾向 貧血 易感染	化学療法 安静療法 骨髄穿刺 輸血療法 骨髄移植	8時間
	・脳および脳神経機能に障害のある対象の看護	脳梗塞 脳出血 くも膜下出血 脳腫瘍 頭部外傷 てんかん ギラバレー症候群 パーキンソン病	運動麻痺 失語 意識障害 嚥下障害 排尿障害 呼吸障害 頭蓋内圧亢進症	手術療法 薬物療法 脳室ドレーン 脳血管造影 髄液検査 リハビリテーション 言語療法	11時間
成人看護学援助論Ⅱ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・呼吸機能に障害のある対象の看護	肺炎 肺がん 気管支喘息 気胸 慢性閉塞性肺疾患	呼吸困難 胸痛 胸水 咳嗽 喀痰 咯血 チアノーゼ	化学療法 手術療法 酸素療法 胸腔ドレーン 人工呼吸 気管切開 気管支鏡 呼吸機能検査 肺組織検査 肺理学療法	12時間
	・感染症疾患患者の看護	新興・再興感染症 結核 梅毒 敗血症			5時間
	・循環機能に障害のある対象の看護	狭心症 心筋梗塞 心不全 高血圧 心臓弁膜症 大動脈瘤 閉塞性動脈硬化症	胸痛 動悸 不整脈 浮腫 うっ血 チアノーゼ ショック 呼吸困難	心臓血管造影 心電図 心エコー検査 手術療法 PCI PCPS IABP 心臓ペースメーカー 心臓リハビリテーション	12時間
成人看護学援助論Ⅲ 1単位 15時間 (うち試験1時間)	・代謝・内分泌機能に障害のある対象の看護	甲状腺機能亢進症 尿崩症 甲状腺機能低下症 クッシング症候群 アルドステロン症 糖尿病 高脂血症 痛風	甲状腺機能障害症状 下垂体不全症状 低血糖 高血糖	食事療法 運動療法 インスリン療法 ホルモン中・尿中濃度測定 自己血糖測定 ホルモン負荷試験 ホルモン補充療法 糖負荷試験 脂質・尿酸代謝検査	8時間
	・アレルギー・免疫機能に障害がある対象の看護	全身性エリマトデス シェーグレン症候群 関節リウマチ クッシング症候群	発熱 関節炎 関節痛 皮膚症状 全身症状 アナフィラキシショック	薬物療法 安静療法 減感作療法 免疫吸着療法 血漿交換	6時間
成人看護学援助論Ⅳ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・運動機能に障害のある対象の看護	大腿骨骨折(頸部・骨幹部) 椎間板ヘルニア 変形性脊椎症 脊髄損傷 変形性関節症(股・膝)	疼痛 腫脹 神経麻痺 知覚障害 出血 変形(フォルマン拘縮)	手術療法 安静療法 牽引療法 ギプス装着 ミニグラーフ 関節液検査 脊髄(椎間板)造影	10時間
	・消化吸収機能に障害のある対象の看護	食道がん 胃がん 消化性潰瘍 大腸がん 潰瘍性大腸炎 クロhn病	吐血 下血 腹痛 嘔吐 下痢 便秘 嚥下障害 食欲不振 イレウス	食事療法 中心静脈栄養法 手術療法 放射線療法 造影検査(胃透視・注腸) 内視鏡検査 塞栓術	12時間
	・肝・胆道系、膵臓機能に障害のある対象の看護	肝臓がん 肝硬変 肝炎(急性・慢性) 胆石症 膵臓がん 膵炎	吐血 腹痛 腹部膨満 肝不全 腹水貯留 肥満 るい瘦 黄疸 全身倦怠感	放射線療法 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 肝生検 肝動脈塞栓術 動脈注入化学療法 PTCD 経皮的エコーガイド注入 経皮的マコ凝固法 ドレーン管理 食事療法 薬物療法	7時間
成人看護学援助論Ⅴ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・体液調節機能に障害のある対象の看護	腎不全(急性・慢性) 腎炎 ネフローゼ症候群 腎腫瘍	血尿 浮腫 尿毒症	透析療法 安静療法 食事療法 薬物療法 腎移植 腎生検 腎機能検査 静脈性尿路造影	8時間
	・泌尿器並びに男性生殖器に障害のある対象の看護	尿路結石 前立腺がん 膀胱炎 膀胱腫瘍 精巣腫瘍	排尿障害 勃起障害	手術療法 ホルモン療法 薬物療法 尿流動能検査 膀胱留置カテーテル管理 尿管ストーマ造設 膀胱鏡 碎石術	5時間
	・女性生殖機能に障害のある対象の看護	卵巣がん 子宮筋腫 子宮がん(頸部・体部) 乳がん 性感染症	疼痛 性器出血 月経異常 排尿障害 外陰部掻痒	手術療法 化学療法 放射線療法 ホルモン療法 頸管粘液検査 不妊治療 性感染症治療 乳房超音波検査 マンモグラフィ 婦人科的処置	10時間
	・感覚機能障害のある対象の看護	緑内障 網膜剥離 突発性難聴 メニエール病 熱傷	視力障害 難聴 めまい 皮膚粘膜症状	手術療法 薬物療法 視力検査 眼底検査 聴力検査(オーディオメーター) 耳鏡 生検(皮膚、粘膜、筋)	6時間

2025 年度 教育課程

專門分野（老年）

# 老年看護学

## 構築の考え方

老年看護学は、老年期のあらゆる健康レベルにある人とその家族を対象に、加齢現象や健康障害に応じた援助を実践する基礎的能力を養う領域として位置づける。

わが国の人口の高齢化は急速に進んでおり、後期高齢者の割合が増加している。寝たきりや認知症の高齢者が増加傾向にあり、核家族化の進展や介護する家族の高齢化などによる家族の介護機能の変化が起こっており、高齢者介護は今後の課題となっている。

老年期は生命が成熟した後、老化・衰退の道をたどり、死を迎える最終ステージであり、人間的に成熟・統合にむかって発達しながら、各々の人生を完成させるための重要な時期といえる。

高齢者は複数の疾患を持ち、慢性的に経過しやすいなどの特徴から、疾患中心ではなく生活志向で、日常生活の自立や生活の質(QOL)の向上をめざした看護が重要である。しかし核家族化や家族のあり方そのものの変化から、学生は日常生活の中で高齢者と接する機会は限られており、高齢者については漠然としたイメージしか持っていないことが多い。

これらのことから、学生の老年観を養い、高齢者を生活の視点からアセスメントし、QOLの向上をめざす看護と、高齢者の尊厳を守り、その人らしい生を全うし、安らかな死を迎えるための援助について学習していく。

老年期にある対象が、健やかに老いるための多様なニーズに対応するためには、保健医療福祉との連携が必要かつ重要であり、高齢者を取り巻く社会環境としての家族や地域社会との関連、特にソーシャルサポートについて理解し、看護の役割を学ぶ必要性がある。

以上のことから、老年看護学の授業科目構造は、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ～Ⅲ 4単位(90時間)並びに老年看護学実習2単位(90時間)とし、合計単位数は6単位(180時間)とする。

老年看護学概論は、加齢現象を人間の生理的現象としてとらえ、老年期の対象の身体的・心理的・社会的特徴の理解と、老年看護の機能と役割を理解する。

老年看護学援助論Ⅰは、高齢者を生活者として捉え、生活機能を整える看護と地域で高齢者を支えるシステムを理解する。

老年看護学援助論Ⅱは、老年期にある対象の健康障害の特徴と健康障害の応じた援助の方法を理解する。

老年看護学援助論Ⅲは、高齢社会における認知症の実態を理解するとともに、認知症予防の看護や認知症高齢者の看護を理解する。また、最終ステージである高齢者のエンドオブライフケアを理解する。

老年看護学実習では、対象の加齢現象や健康レベルの特徴を踏まえて、多様な場で生活・療養する対象に対して看護を実践する基礎的能力を習得する。

# 老年看護学

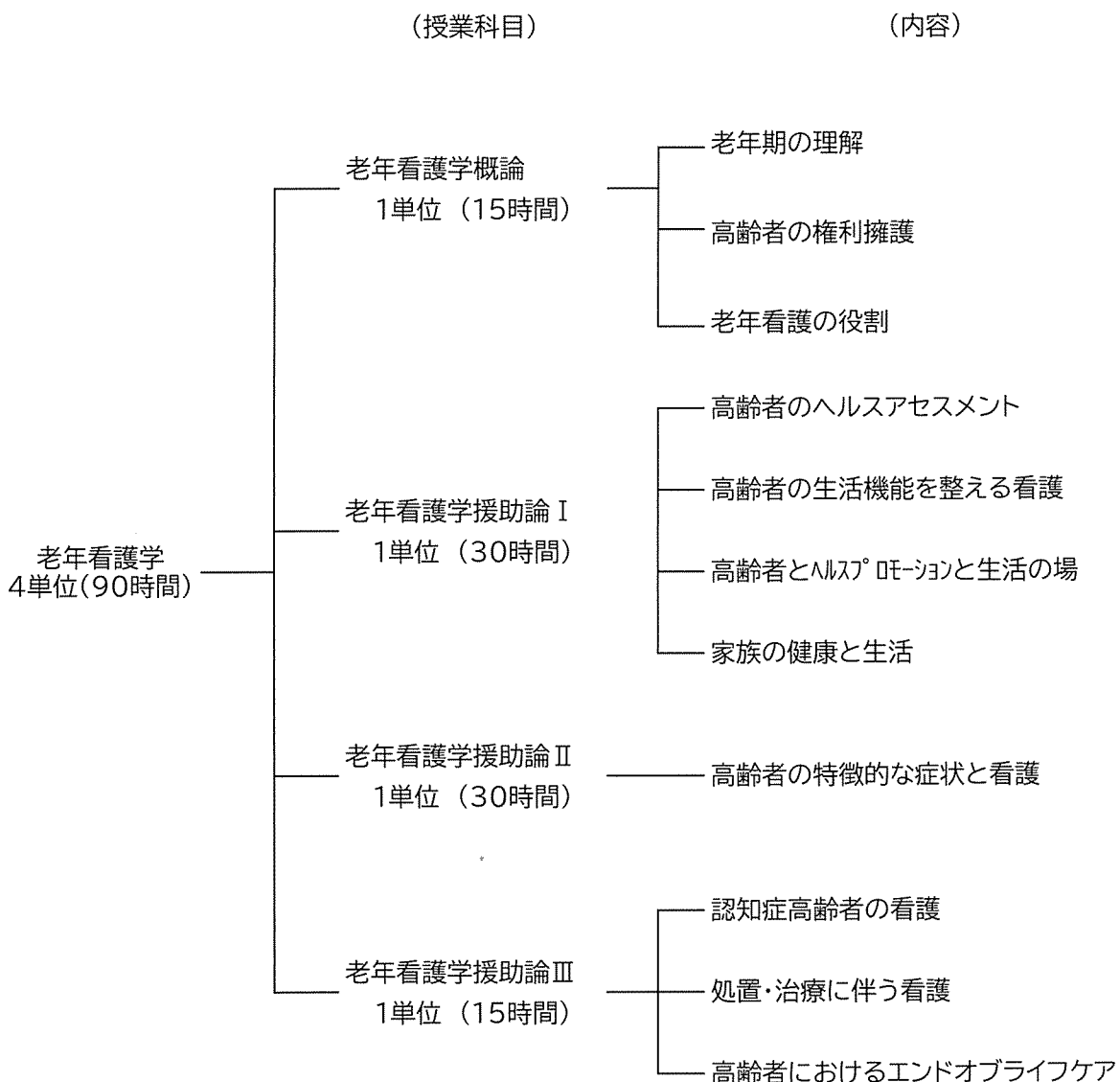
## 目 的

老年期にある対象の特徴を理解し，加齢現象と健康障害に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

## 目 標

- 1 老年期にある対象の特徴と健康特性を理解する。
- 2 加齢に応じた健康の保持・増進と健康障害に応じた援助の方法を理解する。
- 3 老年期にある対象を支援する保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。

# 老年看護学 科目構造



科目名	老年看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	1年
担当者名	半村 博美 (実務経験のある授業科目：看護師)						
ねらい	加齢現象を人間の生理的現象としてとらえ、老年期の対象の身体的・心理的・社会的特徴の理解と、老年看護の機能と役割を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～4回	1 老年期の理解 1) 「老いる」ということ (1) 加齢と老化 (2) 加齢に伴う身体的・心理社会的変化 (3) 老いのイメージ (高齢者疑似体験) 2) 老いを生きるということ (1) 高齢者の定義 (2) 発達と成熟：老年期の発達課題 2 高齢者の加齢変化 1) 身体に加齢変化 2) 高齢者のこころ 3) 高齢者のかかわり 4) 高齢者の暮らし 5) 高齢者の生きがい						講義
5回	3 高齢者疑似体験						演習
6回	4 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 (1) 高齢者に対するスティグマ (2) エイジズム (3) 権利擁護 (アドボカシー) 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度 (1) 成年後見制度 (2) 日常生活自立支援事業						講義
7回	5 老年看護の役割 1) 老年看護の特徴 2) 老年看護の役割 3) 老年看護に携わる者の責務						講義
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学 専門Ⅰ 老年看護学① 老年看護学概論 (医学書院) 看護のための人間発達学 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨む。・演習には積極的な参加姿勢を望む。						



科目名	老年看護学援助論 I						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師 (実務経験のある授業科目：看護師) 外部講師 (実務経験のある授業科目：保健師)						
ねらい	高齢者を生活者として捉え、生活機能を整える看護と地域で高齢者を支えるシステムを理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～3回	1 高齢者のヘルスアセスメント 1) 高齢者のヘルスアセスメント 2) 身体に加齢変化とアセスメント 3) 生活機能のアセスメント ICF 生活機能分類 高齢者総合機能評価 (CGA) 2 ライフヒストリー 1) 高齢者の生活史 2) ライフヒストリーの意義 3) ライフヒストリーの活用 4) ライフヒストリーの展開						講義
4～10回	3 高齢者の生活機能を整える看護 1) 活動 (1)基本動作と環境のアセスメント (2)転倒のアセスメントと看護 (3)廃用症候群のアセスメントと看護 2) 食事・食生活 (1)高齢者における食生活の意義 (2)高齢者の摂食障害の特徴 (3)食生活・栄養状態のアセスメント (4)食生活の支援 3) 排泄 (1)高齢者の排泄ケアの基本 (2)排尿障害のアセスメントと看護 (3)排便障害のアセスメントと看護						
	4) 清潔 (1)高齢者における清潔の意義 (2)高齢者の皮膚の特徴と健康問題 乾燥とかゆみ：皮膚掻痒症 (3)清潔のアセスメントと看護 5) 生活リズム (1)高齢者と生活リズム (2)生活リズムのアセスメントと生活リズムを整える看護 6) コミュニケーション (1)高齢者のコミュニケーション上の特徴 (2)高齢者とのコミュニケーションの原則 (3)コミュニケーション能力のアセスメント (4)高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法						

	<p>7) セクシュアリティ</p> <p>(1)高齢者のセクシュアリティの特徴</p> <p>(2)高齢者の性に関する問題</p> <p>(3)セクシュアリティのアセスメントと看護</p> <p>8) 社会参加</p> <p>(1)高齢化の現状と目ざす社会の方向性</p> <p>(2)地域における高齢者の社会参加</p>	講義
11～12回	<p>4 高齢者とヘルスプロモーション</p> <p>1) 老年期のヘルスプロモーション</p> <p>2) 介護予防とヘルスプロモーション</p> <p>3) 「住み慣れた場所で最期まで」を実現する地域包括ケア</p> <p>5 保健医療福祉施設および居住施設における看護</p> <p>1) 介護保険施設</p> <p>2) 地域密着型サービス</p> <p>3) 住まい</p> <p>6 多職種連携における看護活動</p>	
13～15回 (45分)	<p>7 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族</p> <p>1) 看護家族の健康と生活</p> <p>(1)家族の形態と機能の変化</p> <p>(2)家族による介護</p> <p>2) 家族への援助</p> <p>(1)家族のアセスメントの視点</p> <p>(2)介護家族への援助</p>	
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)	
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・ 出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨む。 ・ 演習には積極的な参加姿勢を望む。	

科目名	老年看護学援助論Ⅱ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師(実務経験のある授業科目:看護師) 外部講師(実務経験のある授業科目:看護師)						
ねらい	老年期にある対象の健康障害の特徴と健康障害の応じた援助の方法を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 老年症候群の特徴 1) 老年症候群とは 2) 老年症候群の分類 2 腰背痛 1) 腰背通の成因と分類 2) 腰背痛の治療と看護 3 転倒・骨折 1) 転倒のハイリスク選定と予防 2) 骨折の予防 3) 施設内転倒防止の看護 4 フレイル 1) フレイルとは 2) フレイルの基準 3) フレイルの原因 4) フレイルの進行とサルコペニア 5) フレイルの治療と予防						講義
3回	5 感覚器障害(視覚・聴覚) 1) 感覚器障害の成因と分類 2) 感覚器障害の治療と看護 (1) 白内障 (2) 難聴						
4・5回	6 嚥下障害 1) 嚥下障害の成因と分類 2) 嚥下障害の評価と検査 3) 嚥下障害の治療と看護 (1) 誤嚥・窒息の予防 (2) 口腔機能改善ケア						
6・7回	7 熱中症 1) 熱中症の成因と分類 2) 熱中症の治療と看護 8 脱水症 1) 脱水症の成因と分類 2) 脱水症の治療と看護 9 やせ・低栄養 1) やせの成因 2) やせの治療と看護						講義
8回	10 排尿障害(尿失禁) 1) 排尿障害の成因と分類 2) 排尿障害の治療と看護 11 便秘 1) 便秘ケア						

9回	12 皮膚障害 1) 褥瘡 (1) 診断と評価 (2) 予防・治療 2) 皮膚掻痒症 (1) 皮膚掻痒症の成因 (2) 予防とケア 3) 疥癬 (1) 症候と診断 (2) 治療と感染予防対策	
10・11回	13 睡眠障害 1) 睡眠障害の成因と分類 2) 睡眠の治療と看護 14 うつ 1) 病態と生理学的特徴 2) うつの症状と生活への影響 3) うつの治療とケア 15 せん妄 1) せん妄の鑑別診断 2) せん妄の治療と看護	
12・13回 (45)	16 心不全 1) 病態と生理学的特徴 2) 心不全の症状と生活への影響 3) 看護の実際 (1)心不全症状緩和ケア (2)慢性心不全急性増悪予防ケア 17 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 1) 病態と生理学的特徴 2) 慢性閉塞性肺疾患の症状と生活への影響 3) 看護の実際	
14回	18 パーキンソン病 1) 病態と生理学的特徴 2) 症状と生活への影響 3) 看護の実際	
15回	19 感染症 1) 病態と生理学的特徴 2) 主な症状と心身及び社会生活への影響 3) インフルエンザの治療と援助 4) 肺炎の治療と援助 5) 感染性胃腸炎の治療と援助 6) 罹患予防と感染拡大の防止策	
(45分)		試験
評価方法	筆記試験で評価する。	
必須資料	系統看護学 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目内容が細分化しており、複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、休まずに出席できるよう体調を整えること。</li> <li>・予習・復習して臨むこと。</li> <li>・科目が細分化され、複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、欠席しないように授業に臨むこと。</li> </ul>	

科目名	老年看護学援助論Ⅲ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師(実務経験のある授業科目:看護師) 外部講師(実務経験のある授業科目:看護師) 外部講師(実務経験のある授業科目:看護師)						
ねらい	高齢社会における認知症の実態を理解するとともに、認知症予防の看護や認知症高齢者の看護を理解する。また、高齢者のエンドオブライフケアを理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～4回	1 認知症と社会制度 1) 認知症高齢者数の推移 2) 認知症をとりまく制度の変遷 2 認知症の予防 1) 認知症の病態と症状 2) 認知症の診断に必要な検査と生活機能評価 3) 認知症の治療と予防 (1)薬物療法 (2)非薬物療法 ①24時間リアルタイム介入 ②バーゲン療法 ③回想法 3 認知症高齢者の看護 1) 認知症看護の原則 2) 認知症高齢者とのコミュニケーション方法 3) 認知症高齢者の環境整備 4) 急性期医療における認知症高齢者の看護 4 家族介護者への支援						講義
5回	5 高齢者の検査時の看護 6 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 高齢者に特徴的な薬物有害事象 (薬物有害作用) 3) 老年症候群と薬物有害事象 4) 薬物療法における看護職の責務						
6・7回	7 高齢者におけるエンドオブライフケア 1) 「生ききる」ことを支えるケア (1)日本人の死生観 (2)死の準備状況 2) 意思決定への支援 (1)高齢者の尊厳を守るための支援 (2)アドバンスケアプランニング 3) 末期段階に求められる援助						
(45分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学(医学書院) 系統的看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。						